

コンセプト

田舎への移住を希望する都市部の女性を酪農ヘルパーとして迎え入れ自然豊かな琴浦町でのゆとりある暮らしを体験してもらいつつ琴浦町の基盤の一つである酪農を支える新たな働き手としての役割を担っていくことを目指す。また社会環境と調和のとれた女性の新たなワークスタイルを提案する。

ゆとりハウス

酪農ヘルパー移住体験シェアハウス



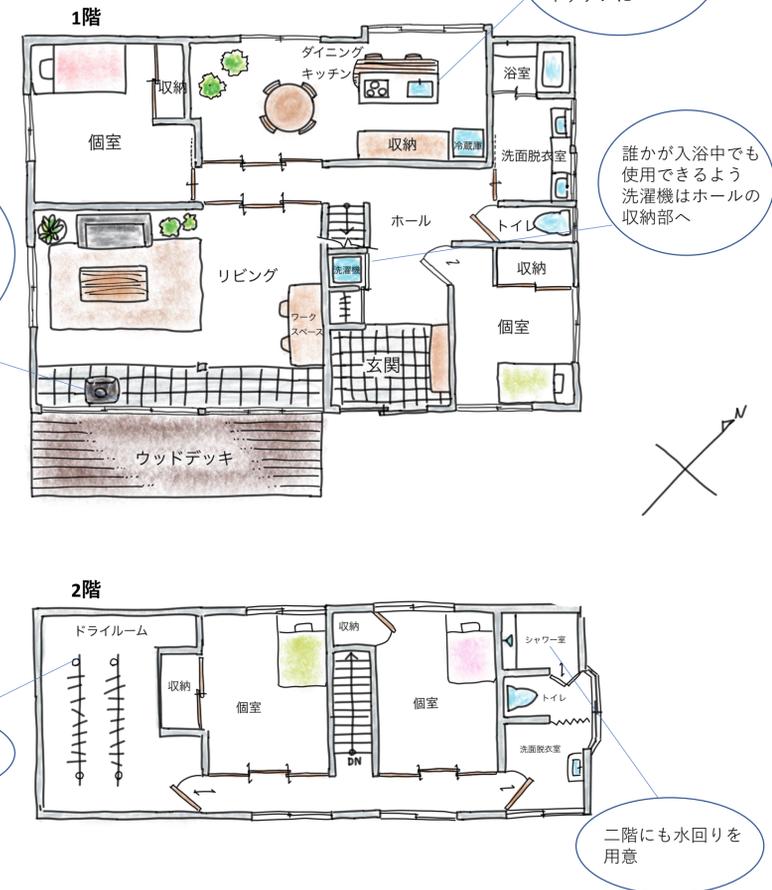
「暮らし方」の提案



琴浦町は日本海に面し、名峰・大山のふもとに位置する小さな町。海から山までは車で30分ほどで移動でき、海と山がもたらす多彩な食材や田舎暮らしを存分に体験できる。生活に必要な買い物はコンパクトにまとまった商業施設に車で移動することができる。東西に横断する山陰道により、市街地へのアクセスも良好だ。

ゆとりハウスでは、ワークライフバランスに重点を置き、暮らしそのものが自然や社会と調和し、仕事もプライベートもゆるくつながっていて、力をかけることなく循環していくようなあり方を目指す。また、そうして育まれた暮らしの中での体験をSNSで情報発信することで、琴浦町への移住促進の輪を広げ、さらなる循環が生まれる。

平面図



パース

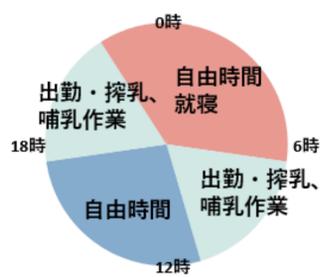


酪農ヘルパー

鳥取県民のソウルドリンク「白バラ牛乳」。県外でも白バラブランドはその美味しさから高い評価をされている。そんな牛乳を生産しているのは鳥取県内の酪農家たちの日々の営みだ。酪農の仕事は餌やりはもちろん、牛たちが乳腺炎などの病気にかからないよう毎日の搾乳や牛舎の清掃が欠かせない。1日たりとも休むことができないのだ。そこで酪農家が休みたい時に業務を委託するのが酪農ヘルパー。

酪農ヘルパーの業務は、搾乳、餌やり、牛舎の清掃、子牛の世話（哺乳など）。内容は概ね決まっているが、それぞれの牧場で設備ややり方が違っていたりするので、ある程度のコミュニケーション能力が求められる。酪農に関する専門的な知識も必要となってくる。酪農ヘルパーの人材育成には国や地方自治体も力を入れており、未経験でも就業が可能だ。所属する組合で研修を受けたり、指導を受けることができる。酪農ヘルパーの勤務時間は、右図のように早朝の時間帯と休憩をはさんで夕方からの時間帯の合計8時間程度。早朝からの仕事は慣れるまでは大変かもしれないが日中のオフタイムを自由に使えることはメリットのひとつ。遊ぶ時間や趣味に打ち込む時間を確保しワークライフバランスを充実させることができる。

1日のタイムスケジュール例



map



公益財団法人 中国四国酪農大学校



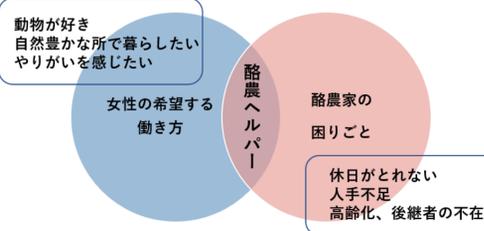
酪農ヘルパーの研修を受けることができる西日本では数少ない施設

「これから」の働き方

働き方が多様化した現在においても、働く上で不安を抱えている女性は少なくない。女性の結婚、出産、育児あるいは介護といったライフステージの変化は多くの場合キャリアを断絶させ、職場への復帰に困難を感じる人もまだまだ多い。その結果、女性の半分以上が非正規雇用を選択している。近年の調査では、都市部では家賃や物価の高さからくる金銭的な不安、通勤時間を含む長時間労働、人間関係の難しさ、補助的な業務で評価をされる機会がないことに不満をもっている人も多いという。コロナ禍によって勤められたテレワークによって都市部から地方へ拠点を移す人も増えてきた。こうした流れの中で、ゆとりハウスで酪農ヘルパーとして働く移住体験はこれからの働き方を模索する女性の選択肢のひとつとなると考える。

鳥取県の酪農はほとんどが家族経営で高齢化が進んでいる。労働力が少ない中であっても牛の健康管理に気を配り、徹底した管理を行うことによって美味しい白バラ牛乳は作られる。まだまだ女性の酪農ヘルパーは少ないが、女性ならではの気配りや丁寧さはこうした現場でもとても歓迎されると思う。また、ゆとり・調和型の酪農を目指す鳥取県のビジョンとも一致するのではないだろうか。貢献できる相手を目の前にして仕事ができること、これこそが酪農ヘルパーの一番の魅力なのかもしれない。

女性と酪農家 労働力のマッチング



動物が好き
自然豊かな所で暮らしたい
やりがいを感じたい

女性の希望する働き方

酪農ヘルパー

酪農家の困りごと

休日がとれない
人手不足
高齢化、後継者の不在